

# 乳児健診を忘れずに!“先天性股関節脱臼”



文：整形外科 津澤 佳代

整形外科の外来には、毎日、身体の痛みやしびれ等を訴えて来院される方がたくさん来ます。今回は、身体の痛みや不調を表現することのできない赤ちゃんの病気についてご紹介します。

この病気は、赤ちゃんの脚の付け根が外れる病気です。「先天性」という名前がついていますが、そのほとんどが、おむつの当て方や抱っここの仕方、向き癖等の後天的要素が加わって起こると言われています。そのため、現在では、「发育性股関節形成不全」とも言われています。

乳児健診が一般に行われるようになり、その数は少なくなっていますが、歩行開始後に発見される例も少なくありません。股関節が脱臼したまま成長が進むと治療は難しくなり、将来的に股関節の痛みや日常生活に支障を来す変形性股関節症になる恐れもあります。

## 【原因】

ほとんどが原因不明ですが、女兒、家族に股関節の悪い人がいる、骨盤位、秋冬生まれ(寒いので脚を伸ばした状態で包んでしまうため)の子に多いと言われています。また、向き癖があると反対側の股関節の動きも制限されるため、脱臼を誘発してしまうことがあります。

## 【よく見られる特徴と診断】

診断には、超音波検査やレントゲン検査が必要になりますが、からだにもいくつか特徴が現れます。

- ① 皮膚のしわ：両足をまっすぐ伸ばした時に左右太もものしわの数が違う。
- ② 開排制限(開きが悪い)：膝と股関節を90°曲げた状態で足を開いたときに、左右で開き方が違う。
- ③ 歩行の遅れ：左右で脚の長さが違うため、びっこを引いたり、歩行が遅れたりする。



上記の症状がある場合、または健診で指摘された場合には、整形外科を受診するようにしましょう。

## 【治療】

治療方法は脱臼の程度によって異なります。脱臼の状態が軽い場合は、リーメンビューゲルという装具を着用し治療を行います。重度の場合、あるいは装具を使っても整復されなかった場合は、牽引療法や手術による整復が必要になります。

## 【予防】

股関節脱臼を予防するために、歩き始めるまでの間、以下のことに気を付けましょう。

- ① 寝ているときは足が自由に動かせるように、きついおむつや洋服は避けましょう。できるだけ、足がM字型に開いて、自由に運動できるように。
- ② 向き癖がある場合は、バスタオルなどを入れて足の位置を調節したり、反対側から話しかけてあげたりと工夫しましょう。
- ③ 抱っこをする際は、スリング等の使用は避け、コアラ抱っこをするようにしましょう。

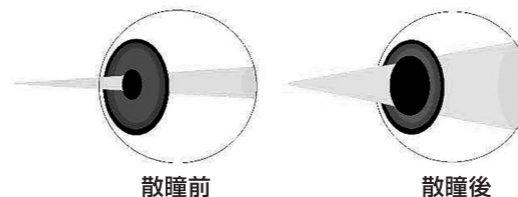
## 眼科検査のこれって何のため??



この目薬は何の薬?  
さんどう  
(散瞳検査)

眼科では、患者さんの症状により診察の前に散瞳薬という、瞳孔(瞳)を大きく広げるための目薬を点眼します。

散瞳薬を点眼し15分から30分位経つと瞳が大きく広がると、目の奥の状態を詳しく見る事ができます。



瞳が大きく広がると、目の中を見るための入り口が大きくなり、隅々まで観察することができます。

網膜や血管・視神経の状態を詳しく調べます。

- 糖尿病や高血圧による合併症が心配な方
  - 白内障や緑内障の方・視力低下のある方
  - 飛蚊症(虫のような物が見える方)
- この他様々な症状で必要な検査になります。

個人差はありますが、薬の効果が半日程度続き、時間が経つと自然にもとに戻ってきます。

薬が効いている間は、目の中に入る光の量が増えるため、普段よりも眩しく見えます。また、ピントを合わせることが難しくなるため、近くの物が見えにくくなります。

このため散瞳検査を受ける方は、自らの運転での来院は控えるようお願いしています。



(文：眼科検査室)

【寄り添った看護を提供していきたい】

## 皮膚・排泄ケア認定看護師

文：皮膚・排泄ケア認定看護師  
高田 幸江



認定看護師をご存知ですか?臨床経験を5年以上経験し、専門的教育機関で7ヶ月から1年の学習をした後、認定試験を受け資格取得した専門領域に特化した看護師のことを言います。現在21領域あり、全国で17,000人以上の認定看護師が活躍しています。

当院では私を含め6名の認定看護師がいます。私の専門は「皮膚・排泄ケア」です。

- 主な仕事は、
- ・ 皮膚が弱くトラブルが生じやすい方へのスキンケア
  - ・ 褥瘡(床ずれ)のケア
  - ・ ストーマ(人工肛門・人工膀胱)を造られる患者さんが安心して手術を受けられるためのお手伝いやその後の生活の支援……などです。

私が皮膚・排泄ケア認定看護師になろうと思ったきっかけは、褥瘡(床ずれ)を持って入院された患者さんとの出会いです。栄養状態も悪く、どうしても良くならない褥瘡(床ずれ)にぶつかり、自分の知識の無さや、力不足を実感しました。その時、知識、技術などをもっと学び適切なケアが提供できるようになりたいと思い、皮膚・排泄ケア認定看護師を目指しました。

また、加齢による身体機能の低下などによる便、尿失禁などの分野も私の領域です。失禁での悩みを抱えている高齢者やご家族の相談にも応じますので、気軽に総合案内のスタッフに声をおかけください。

